

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

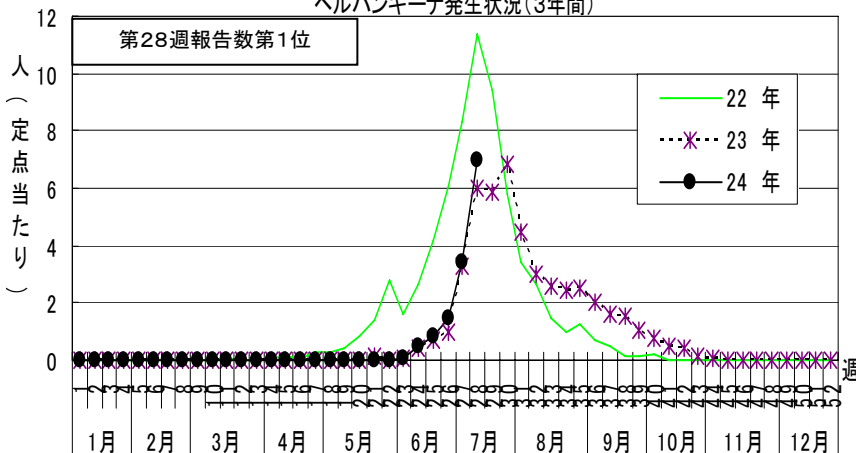
平成24年7月9日（月）～7月15日（日）〔平成24年第28週〕の感染症発生状況

第28週で患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)水痘でした。

ヘルパンギーナは定点当たり6.97人と前週（3.42）より患者報告数は大幅に増加し、流行発生警報基準値（定点当たり6.0人）を超えたため、今後の流行に注意が必要です。感染性胃腸炎は定点当たり6.36人と前週（7.94）より患者報告数は減少しましたが、平成11年のデータ収集開始以来、過去同時期と比較して最多の報告が第21週以降8週連続で続いています。

風しんの届出が3件、麻しんの届出が2件ありました。特に風しんは、全国的にも患者報告数が非常に多い状況が続いているため、引き続き注意が必要です。

ヘルパンギーナ発生状況(3年間)

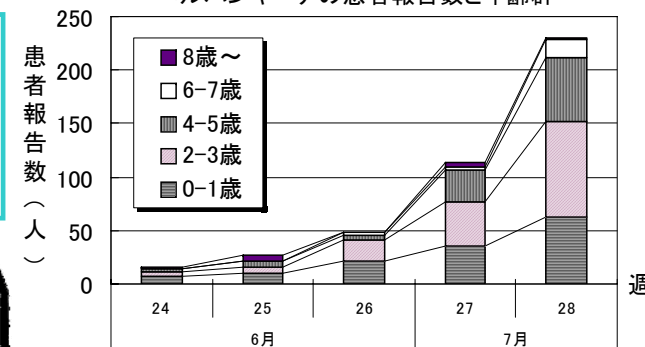


～ヘルパンギーナの報告数が警報基準値を超えました！～

川崎市内において、ヘルパンギーナの報告数が定点当たり6.97人と急増し（左グラフ）、流行発生警報基準値（定点当たり6.0人）を超えました。ヘルパンギーナは、いわゆる「夏かぜ」の代表疾患とされ、例年7月下旬頃に流行のピークを迎えるとともに、まれに髄膜炎などを発症し、重症化する可能性がありますので、引き続き注意が必要です。

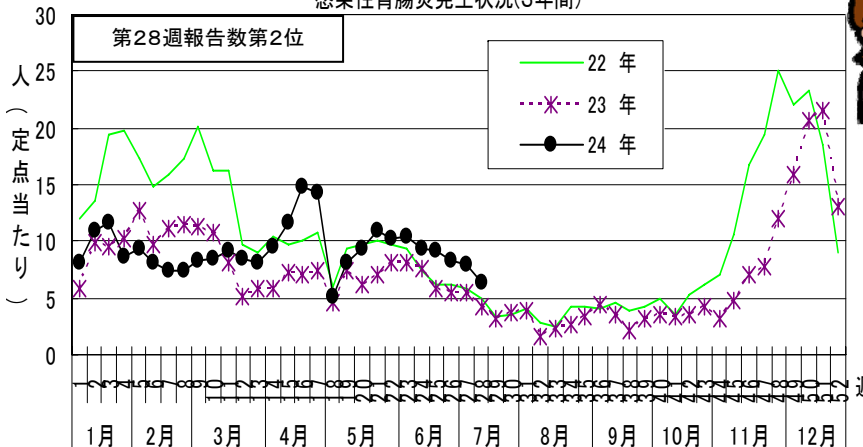
潜伏期間：おおよそ2～4日
症状：突然の高熱（38～40℃）と同時に、のど（奥の方）に水疱が出現します。
 なお、熱は1～3日程度続きます。

ヘルパンギーナの患者報告数と年齢群



上のグラフのとおり、直近5週間の患者総数433人のうち398人（約92%）が5歳以下で、特に1歳の患者報告数が最も多く全体の約26%を占めています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



～ヘルパンギーナの感染経路は？～

くしゃみやせきで飛び散った唾液や便などに含まれるウイルスによって感染します。感染者が使ったタオルやコップ、またオムツの世話をした後の手などからも感染することがあります。

また、便については症状がおさまっても1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあるので注意しましょう。

予防対策は？

ヘルパンギーナに効果的な予防対策は、**十分な手洗いと適切な便の取扱い**です。